



： 卷 頭 言 ：

桜と気候変動

日産化学工業（株） 平田公典
農業化学品事業部

本格的な梅雨のシーズンが到来しました。例年より入りが遅れたようですが、これも異常気象の現れの一つでしょうか。今年は、東京でも4月に雪が降るなど全国的に寒暖の差が激しく、我々のみならず桜も、それに振り回されたようです。実際、3月10日に高知市で桜の開花が報告されましたが、列島トップの早咲きで、気象庁が昭和28年より開花観測を始めて以来の最も早い記録に並びました。更に、5月22日、全国最後の観測地点となる稚内より開花発表されましたが、高知から始まった桜前線が終着までに73日を要し、史上最長の記録となりました。また、松山では、開花から満開まで通常は1週間程度ですが、今年は19日とこれも最長と記録されました。これらの現象は、2月下旬から3月上旬にかけて気温の高い日が続いたことにより西日本では平年より1～2週間早く開花したものの、3月下旬になると強い寒気で全国的に真冬並みの寒さに逆戻りしたことに由来しているようです。

こういった異常気象が今後も続くと桜はどうなるでしょうか。いくつかの研究発表がなされています。観測開始50数年間で1月～4月の平均気温が1.5℃弱上昇し、同時に開花も5～6日早くなったとの記録がある一方、平均気温の上昇により休眠打破が十分でなくなることから九州の一部では開花が大幅に遅れたり、あるいは満開にならない、開花そのものもしなくなるといった予測まで報告されています。身近な桜の開花にも有意な影響を与えてしまう気候変動、改めて事の重要性を感じている次第です。

ところで、気象庁による桜観測は如何様に行

われているかご存知でしょうか。現在、観測は全国68地点で行われておりますが、各気象台等が定めた数本の標準木を対象としております。そのうち‘染井吉野’が標準木となっている観測地点は56地点で、気候的に‘染井吉野’が不適な沖縄・奄美の5地点は‘ヒカンザクラ’が、北海道でも札幌、室蘭、函館を除く7地点では他品種が指定されております。標準木の5～6輪が咲くと開花宣言となり、花芽の約80%以上の開花で満開となります。

さて、今年の桜は、お花見には持って来いではなかったでしょうか。私自身、例年の弊宅近辺の花見に加え、A社様にお招きいただいた上野公園の満開の夜桜、4回も訪ねた新宿御苑の各種遅咲きの桜と、過去、最も充実した機会を得ました。そこで、皆様方にも是非とこのことで一つ紹介させていただきます。新宿御苑は、新宿区と渋谷区にまたがる面積58haの都心の大公園であります。江戸時代の高遠藩主内藤家の屋敷がルーツで、その後、東大と農工大の両農学部の前身となる農事修学場の開校を経て皇室へ献納され、明治39年に『新宿御苑』が完成しました。昭和24年に一般公開が始まり、昭和46年に環境庁所管、現在に至っています。御苑には約2万本の木々が茂り、自然豊かな都会のオアシスとなっています。特に桜については70種近くの品種とバラエティーに富み、早春から4月下旬あるいはゴールデンウィークあたりまで長期間にわたって異なった風情を楽しむことが出来ます。お薦めは‘染井吉野’後の八重で、‘一葉’‘普賢象’および‘福祿寿’といったところでしょうか。是非、お出かけ下さい。